

ESSAY いたずら

倉元信行

19

ドクター

私が仕事上、どうしても英語を喋らざるを得なくなったのは、自分の開発した新しいセラミック材料を持って、世界中を飛び回る羽目になったからである。

最初の出張はアメリカだった。

1985年8月、営業のプロであるFさん、英語はペラペラの国際部のNさん、それに技術担当の私の3人はアメリカに飛び立った。この新材料を使いそうなところを捜し歩くというような、頼りない旅であった。

それまでの40年近い人生において、英語で会話をするという機会の全く無かった私は、技術的な説明の英文をノートに書いておいて、相手の前でそれを読むということで自分の役目を果たすしかなかった。あとはNさんの通訳に頼るだけである。

一日目の仕事をやっと終え、シリコンバレーの近くにあるモーテルに帰った夜のNさんの言葉である。「言い難いことなんです、あなたの英語は相手には殆ど理解されておりませんよ」

紳士で名の通ったNさんの恐縮したような口振りだった。

そう言われてもこちらもすぐに変えようが無い。結局、このノートを片手に、3週間で18社を訪問するというつらい旅をせざるを得なかった。

この旅では、訪問先が初めから決まっているわけではなかった。

この材料に興味を持つかもしれないと思われるエレクトロニクス関係の会社に目星をつけて、次々アポイントを貰いながら飛び回るのである。

訪問先では、この材料をどこに紹介したいのでしょうかと、必ず尋ねた。

毎日飛行機で移動し、飛行場から翌日の訪問先近くのホテルまでレンタカーで移動する。これの連続である。深夜に着くことも多かった。

ニューヨークではNさんが電話帳をめぐって、IBMの大代表に、「金属より熱を伝えるセラミックスがあるのですが、おたくのどこかで興味を持つ方はいないでしょうか」

と電話して断られるという、嘘のような本当の話もあった。大会社の代表電話口の女性にそんな事が分かるはずも無い。

運転はNさんと私が交代でやった。私には、初めての左ハンドル、右側通行、オートマ車の運転であった。旅が終わった時、計算してみたら二人で2000キロを走っていた。

アメリカはびっくりするほど空が広くて大きな国だった。

英会話は大きな課題となった。翌年には、アメリカでの学会発表が控えていた。

訪問先の一つであったキャボット社というところの技術者が、こういう材料は学会で発表すべきですと、ECCという電子材料に関する学会での発表を勧めてくれたからである。

英語を話せるようになると、私はこの発表の原稿を、読まずに丸暗記することに決めた。20分の発表に使用するスライドは約30枚あった。

毎日毎日、繰り返しこの原稿を頭にたたき込んだ。スライド投影機を研究所から家に持ち帰り、部屋の壁で練習した。

この材料、窒化(ちっか)アルミは、英語では、アルミニウム・ナイトライドという舌をかみそうな名前なのだが、小さな娘たちはこれを覚え、私が投影機を持ち出すと、おとうさん、またアルミニウム・ナイトライドをやるのと、言ってはスライド送りのボタン押しを楽しんでいた。

目をつぶっても、最初からの一枚一枚のスライドが順に頭に浮かび、その説明がすらすらと出るようになった。後は本番を待つだけである。

翌年5月、シアトルでの発表はスムーズだった。発表直後、ヒューズ・エアクラフト社の人に来て、今と同じ話を会社に来てやってくださいと頼まれた。努力は報われた。

ベル研究所の人は、これはヨーロッパでも話すべきだと、自分が世話役をしているパリでの秋の会議にエントリーしてくれた。

それ以降、このパリでの発表や後のフルス賞の受賞講演など、すべての学会発表を丸暗記して喋ることで、私は英会話の基礎を磨くことにした。

NHKの続基礎英語も初めはよく聴きとれなかったが、1年、2年と続けるうちに段々耳慣れしてきた。ヒアリングができないと話が続かない。

ドイツのヘキスト社から技術者が徳山に来た時のことである。

私は用意した資料を一日がかりで説明した。もう、前もって英文原稿を書いておく必要も無かった。

その日同席して、説明を聞いていた商社の人、夜の会食の席で、何年海外駐在をされていたのですかと真顔で聞く。駐在どころか、私は5年前には英語がほとんど話せませんでしたと言うと冗談でしょうという顔をされた。

実際あの5年前、むこうの人と昼食をとりながら、「娘」がいることを言おうとして、どうしても「ドクター」という言葉が出てこず、結局一言も喋らなかった自分を思い出していた。

今は仕事が替わり英語を使う機会もないので、会話力もだいぶ錆びついてきているに違いない。ラジオの英会話を聞くのもいつの間にかさぼっている。

人間、必要にせまられると何とか出来るようになるものだし、必要にせまられないとやらない怠惰な動物でもある。

